

磐田市

桶ヶ谷沼 ビジターセンター だより



第242号 2024年7月号

開館時間: 午前9時～午後5時 (月曜日 休館)

住所: 〒438-0016 磐田市岩井 315 番地

電話: 0538-39-3022 FAX: 0538-39-3023



桶ヶ谷沼のイトトンボたちに会いに来ませんか

イトトンボの仲間には、イトトンボ科、モノサシトンボ科、アオイトトンボ科を含む多くの仲間がいます。日本ではこれらの仲間より大型のハグロトンボが属するカワトンボ科を除いて分類されていますが、特長が似ているので、今回はハグロトンボも含めて現在桶ヶ谷沼で見られるイトトンボの仲間を紹介します。

イトトンボの仲間には次のような特長があります。

- ① 前・後の翅が、ほぼ同じ形・大きさ
- ② 頭部は左右に幅広く、複眼が小さい
- ③ 腹部は細長い円筒形

①のような特長から、イトトンボの仲間は「均翅亜目」と呼ばれています。一方、シオカラトンボやオニヤンマは「不均翅亜目」と呼ばれ、前と後の翅の大きさが違い後の翅の方が大きいという特長があります。また、「不均翅亜目」の仲間のほとんどが直線的に広い空間を飛び回るのに対して、イトトンボの仲間「均翅亜目」はあまり水辺から離れず、水辺の草の間をパタパタ・ヒラヒラと緩やかに羽ばたきながら低く飛ぶのも特長の一つです。交尾では、腹部が細くてよく曲がるためハート(♥)形になることがあります。

イトトンボのヤゴは「不均翅亜目」のヤゴと比べると小型で細く、腹部の先端に尾鰓というエラがついています。「不均翅亜目」は肛門近くの直腸にエラがあります。

かつて桶ヶ谷沼では18種類のイトトンボを確認することができましたが環境の変化に伴い現在は以下の11種類が確認されるのみとなり、個体数も減っています。なお、コバネアオイトトンボとホソミイトトンボは、2019年～2021年の調査では確認されていましたが、それ以後のビジターセンターの所員の目視での確認はありません。



ベニイトトンボ



キイトトンボ



クロイトトンボ



アジアイトトンボ



モノサシトンボ



ホソミイトトンボ



アオモンイトトンボ



ハグロトンボ



アオイトトンボ



オオアオイトトンボ



コバネアオイトトンボ

左の3種類のアオイトトンボの仲間は、ハネを開いたままで枝などにとまります



クロイトトンボのヤゴの腹部の先端3枚のエラ(尾鰓)がついています。この部分で呼吸をしています。



ショウジョウトンボのヤゴの腹部の先端お尻から水を出し入れして呼吸をしています。



ベニイトトンボの交尾上がオス 下がメス イトトンボの仲間は腹部が細く柔らかいので、交尾の時にハート形になることがあります。偶然、このようすを見ることができると幸せな気持ちになります。

トンボの交尾

トンボのオスの生殖口は腹部の先端にありますが、ここにある精子を一旦腹部のつけ根にある副性器に移します。交尾のとき、オスは腹部の先端にあるハサミ状の把握器でメスの頭部あたりをしっかりと捕まえます。すると、メスは腹部を前方へ折り曲げて生殖口のある腹部の先端をオスの副性器にくっつけ交尾(受精)が成立します。

ビジターセンター行事に参加して、桶ヶ谷沼の自然と触れ合ってみませんか

* 申し込みは直接電話でビジターセンターまで

「水生生物観察会」	
日時	9月1日(日) 午後1:30~3:30
場所	田原交流センター西の水車小屋付近
対象・募集人数	一般(小学生は保護者同伴、未就学児の参加・見学は不可)・20人 先着順
内容	桶ヶ谷川に棲む水生生物の観察
服装・持ち物	水に入って観察ができる服装、長靴または汚れてもいい靴(かかとを固定する部分のないサンダルは不可)、ゴム手袋、帽子、水筒、タオル、着替え(必要な方) 少雨の場合カップ、魚とり網(ある人)
備考	天候によっては中止になることがあります。 駐車場は田原交流センター南の空き地(交流センターには駐車しない)